

# **平成29年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における新東淀中学校の結果の分析と今後の取組について**

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成29年4月から7月末までの期間に、2年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

## **1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）**

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

## **2 調査の対象**

- ・国・公・私立学校の中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年の原則として全生徒
- ・新東淀中学校では、2年生 200名

## **3 調査内容**

- ・生徒に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）  
中学校調査では、以下の種目を実施する。

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ（※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択）

- イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「生徒質問紙調査」という。）を実施する。

## 平成29年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証シート

### 全体の概要

大阪市立新東淀中学校	中学校	生徒数	208
------------	-----	-----	-----

### 平均値

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ハンドボール 投げ	体力合計点
男子	31.88	26.12	44.07	49.95	397.90		7.94	197.22	23.73	42.70
大阪市	29.00	27.45	41.55	51.39	409.58	84.05	8.10	189.74	20.39	41.00
全国	28.89	27.45	43.20	51.89	391.23	85.99	7.99	194.54	20.56	42.11
女子	25.12	23.37	41.92	44.24	297.51		8.85	165.90	15.18	49.03
大阪市	24.11	23.81	44.70	46.89	303.77	57.92	8.95	165.67	13.06	49.27
全国	23.82	23.73	45.86	46.76	287.36	59.14	8.80	168.57	12.96	49.97

### 結果の概要

男子は、握力、長座体前屈、持久走、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げの6種目は大阪市の平均を上回り、残りの2種目については大阪市の平均を下回る結果となった。体力合計点については、大阪市平均を1.7点、全国平均を0.59点上回る結果であった。

女子は、握力、持久走、50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げの5種目は大阪市の平均を上回ったが、全国の平均を上回ったのは握力、ハンドボール投げの2種目だった。体力合計点については大阪市平均を0.24点、全国平均を0.94点を下回る結果であった。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

水泳大会、体育大会、マラソン大会、球技大会などの体育的行事に向けて、日頃の体育の授業を中心に、体力向上や技能向上のため、目標記録を設定したり、生徒の記録を提示するなどして、個々の生徒の意識向上を図りつつ、計画的に取り組んできた。また、タブレットを活用し、自己の動きを客観的にとらえ、見本となる姿とどう違うのかを自ら発見し、課題克服につなげていけるよう取り組んだ。これらを通して、生徒自身が自分の課題と主体的に向き合うことができ、意欲向上につながる生徒も多くいた。その反面、規律ある集団の中に入ることができない、参加できない生徒もいる。さらに自分自身の苦手なことに前向きに挑戦していくうと思えない生徒も若干名いる現状がある。

2月から導入したトレーニングルームの活用を積極的に行い、興味関心の向上を図るとともに、日頃のさまざまな学習活動の中で苦手なことを乗り越えさせていく手立てを教え、関わり、導いていくことが最重要課題である。